

在宅血液透析への道

私は、17年間動いてくれた腎臓が機能を失い、平成20年に再透析を導入して8年目になります。現在仕事は能代市内の認定こども園の事務長として毎日仕事をしておりますが、透析は秋田市でしていました。なぜか？

能代市では夕方から夜間の透析を受け入れてくれる施設がありません。もう一つは、効率の良いHDF透析を5時間行ってくれる病院はどこにもありません。秋田市では、午後11時迄の夜間透析、それもHD透析より効率の良いHDF透析を行ってくれます。患者の身体を一番に考えてくれる、意識の高い医師がいるのです。5時間透析をお願いしても断られる始末です。現在、関東関西の大都市圏で普及してきた「オーバーナイト透析」、「頻回透析」「在宅血液透析」があります。学会の資料によりますと、透析は隔日透析の場合、1回あたり6時間以上透析が理想であると発表されております。しかし、厚生労働省の点数から見ますと、5時間までは保険点数が付きますが、それ以上は病院負担でした。最近では5時間超の透析に保険点数がつくようになりました。秋田市には患者の身体を第一に考え、新たな道を切り開く医師がいるのです。

私は、再透析導入時、月、水、金の週3回、5時間の血液環流透析を受けていました。しかしそれでも、仕事には支障をきたします。職場の幼稚園では黙認してくれますが、透析のある日は午後2時で早退をして秋田へ向かいます。これを何とか回避出来ないかと思い、再透析導入時から「在宅血液透析」の導入が出来ないか研究をしてきました。結論として秋田県では無理という結果であきらめておりました。

H24年2月、「全国在宅透析研究会」が3月に山形市天童で開かれるという情報をネットで入手。早速ホスト病院となる、矢吹病院の政金Drにメールで問い合わせました。

懇切丁寧に質問に答えて下さいまして。まずは「在宅透析研究会」に参加して自分で確認してみて下さいとのこと。家内を介助者として一緒に参加してきました。全国で在宅血液透析を行っている方は約300名。そのうち東北で行っているのは、矢吹病院でお世話している5名だけ。

秋田県では中隔病院担ってくれるところが無い旨相談をしました。政金先生は、明快に、それなら我が病院で遠隔透析管理をしましょう。ついては、自分で透析が出来るようになるためのトレーニングを山形の矢吹病院で行えるようにスタッフにトレーニングスケジュールを立てさせるという。それから1ヶ月後の4月に連絡をいただき、5月に第1回目のトレーニングに入りました。

トレーニングは、山形市まで5時間かけて前日に移動して泊まることから始まります。片道5時間の道のりです。朝8時半までに秋田を出発して到着するのには無理がありますから。

まずは、自分の腕に針を刺せること。医事薬事法の関係で針は自己穿刺認められますが、介助者である家内にしてもらおう事は出来ません。そして次に機械のプライミングがきちんと出来ること。そして回収が出来ること。次にはトラブル時の対処方法を順次勉強していきます。このようにしてトレーニングから約10カ月で許可が下り秋田県初の自宅での透析がかないました。

在宅にするメリットは、「毎日透析できる」「自分の時間に合わせて出来る」「毎日出来るため、1回の透析時間は3時間程度でよい」です。週3回5時間で1週間15時間。在宅の場合は、毎日3時間の7回ですから21時間。毎日身体の状態を正常値に近くすることが出来るのです。

実際に延命率を見ますと、1位：生体腎移植 2位：在宅血液透析 3位：脳死からの移植 です。透析は出来るだけ多くの時間を行い、老廃物を取り除く。その代わり今まで透析患者が課せられていた、「食事制限」は思いっきり緩和し。塩分は控えめにしますが、それ以外は普通に食事をして良く運動することになります。透析をしっかりとすることで、身体に必要なアルブミンなどの物質も抜けてしまうからです。制限をすると大切な成分が足りなくなってしまう。しっかりと食べてしっかりと透析です。

今から約25年前、移植を受ける時もチャレンジでした。秋田で移植を受けた人と話す機会が無く、文献だけの勉強でした。今回の在宅血液透析も、秋田県では前例が無く、受け入れ病院も無いままスタートしている、私にしてみれば人生2回目の大チャレンジです。しかし。その先には私のQOLを大きく改善する現実が待っています。介助者の家内と二人三脚で頑張っています。

皆さん、あきらめないことです。自分で思い描いたことは努力を怠らなければ実現できるのです。是非とも目標を持って前を向いて努力していただきたいと思いません。笑顔のあるところに幸せがやってくるニコニコ生きましょう。